

2016年7月11日

札チャレラジオ通信 第27回

千葉：三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信の時間です。この番組は自立を目指す障害のある人がITでマザル、ハタラク、拓き合う社会を作りたいとの思いで活動をしている、私たちNPO法人札幌チャレンジドの活動内容をお伝えしています。

本日のパーソナリティーはNPO法人札幌チャレンジドで就労支援を担当しています、千葉と申します。そして今日は就労グループのリーダーであります、佐藤美貴で番組を進めていきます。美貴さんよろしく願いいたします。

佐藤：よろしく願いします。

千葉：何か今日は初の試みですね。

佐藤：うん。あ、ゲスト。そうなのです、そうなのです。

千葉：お電話で遠方の方を。

佐藤：そう、だから私とあなたと二人っきりなのですよ。

千葉：そうですねえ。なかなかゲストがいないのも逆に緊張するような感じですね。

佐藤：なにか対面でね、二人っきりでね。

千葉：そうですね。

佐藤：婚活みたい。

千葉：Ustreamがなくて残念という感じですけども。

佐藤：ほんとにね、そうですね。

千葉：では今あれですね。スタッフの方に。

佐藤：うん電話でね。

千葉：ゲストの方を電話でお呼びいただいているという形ですけども。ゲストの方の説明は電話がつながってからした方が伝わりやすいかな。

佐藤：うん。そうしよう。お任せ。

千葉：そうですね。そうしましょう。はい。もう少しでつながりそうですね。

佐藤：なるほど、ではもうちょっとお話し。

千葉：まず今日のゲストの話をしましょうか。

佐藤：今日のゲストはですね。愛媛県の松山市にあります、私たちの就労グループと同じでパソコンを使った業務をメインに就労支援をしている多機能型事業所を行っている NPO 法人ふうしすてむというところの理事長がゲストです。

千葉：はい。理事長が川崎さん。なのですね。

佐藤：そうです、そうです。何か同じような仕事をですねされているということでいろいろなお話が。

佐藤：あ、つながったそうですよ。

千葉：つながりましたね。いろいろなお話を聞けるかと思って楽しみですけども。

佐藤：はい。では早速。

千葉：はい。よろしくお願いします。

佐藤：あ、川崎さんいますか。

川崎：はい。

佐藤：どうもこんにちは。佐藤です。

川崎：こんにちは。よろしくお願いします。

佐藤：よろしくお願いします。今日は札幌チャレラジオ通信にゲストにきていただきありがとうございます。

川崎：いえいえ。

佐藤：早速ですけど。ふうしすてむさんの自己紹介をお願いしてもいいですか。

川崎：はい。我々ふうしすてむっていうのが NPO 法人でしてですね。ふうしすてむってなぜふうっていうのかっていうこと。我々はキャラクターが豚のイラストを使ってまして。よく豚と間違えられるのですが、実際にはですね b と u っていう英語の頭文字をとってまして。バウンダリーアンフェンストっていうこと。垣根を取っ払うとかそういう意味があります。

佐藤：はい。

川崎：これはどういった意味かという。我々は障害者の就労支援をしている事業所なのですけれども。障害がある人もそうでない方も一緒になってパソコンを勉強していきましようっていう思いで、つけられた名前であります。

佐藤：はい。

川崎：我々の活動としましてはですね。障害者、いろいろな障害の方がおられるのですけれども、そういった人たちにパソコンを教えたりとか。手が不自由でパソコンの操作ができない人にいろいろな支援機器を紹介してあげたりとか。あと設定をしてあげたりとかですね。そういったボランティア活動をしてると、それと研修とか講師派遣事業といいまして。私どもの事業所から愛媛県の中でも松山市という街を中心部なのですけれども。愛媛県の中でも過疎地に行きますとなかなか障害のある方がパソコンを使って仕事をしたいのだけでも教えてくれるところがないっていうこと。いろいろな地域に出向いて行ってですね。研修をしたりですとかまたその地域に講師を派遣したりとか、そういった事業もしております。

佐藤：すごいいろいろされてる。

千葉：そうですね。

川崎：そうですね。それともうひとつメインになるのが就労継続支援事業っていうのをやってまして。就労継続支援、札チャレさんもやってるんですけども。

佐藤：はい。

川崎：わたくしどももA型事業所をずっと5年前からやってまして。今年の6月から、先月からなのですけれども、B型事業所も立ち上げまして、今多機能型事業所になっております。

佐藤：そうですね。すごい。さっき私はぶーしすてむさんのことを就労支援の団体ですっていうふうで紹介したんですけど。

川崎：はい。

佐藤：ボランティアとか研修もやってる団体っていう感じなのですね。

川崎：そうですね。そうですね。

佐藤：うーん。そっか、すごい。では多機能型に注目してお話しすると、メンバーは何人くらいいらっしゃるのですか。

川崎：今障害のある方が両方併せて30名位います。

佐藤：30人。分かりました。どのような障害の方が。

川崎：障害といってもいろいろあるのですけれども、一番多いのが今われわれのところでは発達障害といわれてる人が多いのですけれども、身体障害のなかでも肢体不自由、手足の不自由な人と内部疾患ですね。心臓とか腎臓とかに障害のある方がいたりとか、あと精神障害っていう方もおられてですね。これはうつ病の方とか統合失調症の方とかっていう方もおられてまして。軽い知的障害の方もおられます。

佐藤：障害の、私たち札幌チャレンジドも障害の種別は問わないということで活動をしているのですが、ふうさんもそうなのですね。

川崎：そうですね。障害の種別は問わないですね。

佐藤：そういった方々にパソコンを使ったお仕事をしているっていうことだったのですが、どういったお仕事を皆さんやってるのですか。

川崎：はい。パソコンの仕事は我々が特に多く受けてることがですね、ホームページの作成とか更新ですね。写真の加工であったりとか。

佐藤：はい。

川崎：ビデオの編集というかいろいろなイベントのビデオの編集とか。会社のビデオであったりとか。そういう動画編集の仕事も結構多いですね。それと最近3Dプリンターとかで記録するための3Dのデータを作成したりとか。そういう仕事もありますし。あと業務用のアプリケーションのソフトの開発っていう、これはプログラマーの人が何人かいるのですけれども。そういうアプリケーションソフトの開発なんかもさせてもらってます。

佐藤：なにか千葉さんすごくないですか。

千葉：すごいですねえ。

佐藤：ねえ。

千葉：なにか本当に多岐にわたっていろいろな角度から仕事をちゃんと組み立てていけるっていう感じがすごく受けますけどね。

佐藤：そういう何かスキルの高いお仕事をいっぱいあるのですけど、どうやって教えてるのですか。

川崎：これはそれぞれ専門のスタッフがいます。

佐藤：うんうん。

川崎：プログラマーの人だったりとか、あとは映像とか、画像の加工が得意な人とか。スタッフも含めて利用者さんも中途障害なんかは逆にもともと教えなくても充分知ってる人もいますので。お客さんと利用者さんとの間に橋渡しの役割をできる人もおられますねえ。

佐藤：えー。別に支援者が教えるとかそういうスタイルではなくて。

川崎：はい。

佐藤：できる人が教えあうっていう感じなのですね。

川崎：そういう感じですね。

佐藤：うーん。すごい。なにか千葉さん質問ないですか。

千葉：そうですね。30名の方が通所されてるというふうにおっしゃっておられたのですが、
れども。

川崎：ええ。

千葉：A型もB型もふくめて30名。

川崎：あ、そうですね。通所をしてない人もいましてですね。在宅で働いてる方も結構おられまして。

佐藤：うん。

千葉：はい。

川崎：約半分位の方が在宅がメインでされてますね。

佐藤：もともと在宅がスタートの団体ですよ。

川崎：そうなのですよ。もともとA型事業を始めたのは5年前なのですからけれども、それ以前から在宅就労支援はずっとしてまして。その当時は身体障害の人ばかりだったのですけれども。受注した仕事を在宅のワーカーさんにやってもらってるっていうそういうスタイルで仕事をしてました。

佐藤：うーん。結構千葉さん、うちも札幌チャレンジドも在宅就労っていうところでとても北海道広いからっていう理由もあるのですけれど、よく質問されますよねえ。

千葉：そうですね。

佐藤：後半はぜひ在宅のノウハウをぶろぐでむさんに教えてもらいたいですよね。

千葉：そうですね。

佐藤：ぜひちょっとできたらなあって思いますよね。

佐藤：そしたらここで。

千葉：早いもので時間がもう半分まで。

佐藤：もういっちゃった。

千葉：川崎さんからリクエスト曲をいただいております。『大空と大地の中で』ですね。

川崎：はい。

千葉：松山千春の歌なのですけれども。川崎さんすいません。この曲を選んでいただいた理由などございますか。

川崎：タイトルもそうなのですけれどもスケールの大きな曲なので。勇気づけられるというか、また頑張ろうっていう気持ちになれるっていうそういう曲なのでぜひ皆さんにも聞いてもらいたっていう思いでこの曲をリクエストしました。

千葉：はい。

佐藤：川崎さん自身もすごくスケールの大きい人なのですよ。

千葉：あーそうなのですね。

川崎：いえいえ。

千葉：ぜひお会いしたい。

佐藤：ぜひ北海道に来てほしいですね。

千葉：そうですね、そんな気持ちも込めましてリクエスト曲ですね。

川崎：はい。

千葉：『大空と大地の中で』ですね。よろしくお願いします。

千葉：前半に引き続きゲストに愛媛県松山市にあります NPO 法人ふうしすてむの川崎理事長をお迎えしてお送りします。川崎さん、引き続きよろしくお願いいたします。

川崎：はい。よろしくお願いします。

千葉：ふうしすてむさんと札チャレとは仕事でもつながっているということで今回お呼びしたという感じなのでしょうかね。

川崎：そうですね。

千葉：美貴さんどうでしょう。川崎さんのところとかというかふうしすてむさんに行かれたことは。

佐藤：うん。結構お邪魔してメンバーの方がすごいいきいきとして働いてるのが印象的で、誰がメンバーで誰が職員だかさっぱり分からないくらいすごいいきいきしてるのですよね、ふうさんって。今も近くに皆さんいるのですか。川崎さん。

川崎：あーそうですね。

佐藤：本当。すごい会いたいなあ、後半なのですが、川崎さん在宅のこと少しやはりいろいろお聞きしたくて。もともと札幌チャレンジドとふうしすてむさんって在宅就労がご縁でつながりができたのですが。

川崎：そうですね。

佐藤：在宅の方も通所の方と同じようなお仕事をされてるのですか。

川崎：そうですね。

佐藤：ではもうぜんぜん在宅だからこれはできませんとかそういうのはなしで。

川崎：ああ、ないですね。

佐藤：すごい。

川崎：ただ個人情報とかでどうしても在宅の人にとってはまずいってクライアントさんの指定がある場合なんかは事務所メンバーだけでやるケースはありますね。

佐藤：うんうん。それはうちと同じですね。

千葉：そうですね。在宅のメンバーに対して職員の皆さんってどういうふうにかかわってお仕事を支援したりとか悩みとか相談とかされたりとかしてるのですか。

川崎：仕事の打ち合わせに関してはですね。メールでやるケースが多いのですが。

佐藤：あ、メール。うんうん。

川崎：在宅の人って先ほども言ったようにうちは発達障害の人が結構多くてですね。発達障害の人はやはり電話が苦手な人が多くてですね。音声でのやり取りがちょっと苦手な人が多いので。文書で指示書を作ったりとかですね。メールで本文で指示を書いて送ったりとか。そういった感じの配慮といたしますか。コミュニケーションの手段も一人ひとり違いますので。その人が理解できやすいような手段をとってやってるっていうところですかね。

佐藤：私たちでも実際やっててその悩みがあったりするのですが、メールだと一方的っていうか一方通行になっちゃうのでそれで誤解を生んだりとか、ちょっとそういうので、ああ、そういうことではなかったのだけどとかあったりするのですが。

川崎：ああ、はいはいはい。

佐藤：そういうのはぶうしすてむさんでもあるのですか。

川崎：ありますね。

佐藤：ああ、同じだね。

千葉：うん、そうですね。

佐藤：そういうときはどういうふうにフォローっていうかそうではないんだよとかいう。

川崎：あとで説明したら分かりますし。

佐藤：ああ。

川崎：それはちゃんと向こうから言ってくれることが多いので、そこは逆に助かってますね。確認のメールが返ってきたりしますので。

佐藤：ではそこはもうコミュニケーション力なのですね。

川崎：そうですね。

佐藤：何かぶうしすてむさんって愛媛全域なのですか。なにかホームページとか見たら、割と広い範囲でやっていますね。

佐藤：松山市だけでなくて。

川崎：でなくて、そうですね。

佐藤：何か遠い人だとすごく山を越えてとかそういう世界ですか。

川崎：ありますあります。

佐藤：ですよ。そういった遠方のメンバーの人にはどういった配慮をしてるのですか。

川崎：たまに訪問したりとかですね。

佐藤：ええ。

川崎：月に何回かは実際に事務所に出てきてもらったりとかという形で顔の見える関係はずっと継続をしています。

佐藤：顔の見える関係。

川崎：そうですね。

佐藤：うん。

千葉：大事ですもんね、在宅の方でもね、やはり顔を見ていくっていうのはね。

川崎：そうですね。

佐藤：うんうん。

川崎：大人数の中に入るのは難しい人もいますので、全体のミーティングなんかには参加できない人もいますのですが、少人数だったら大丈夫っていう方もおられますから。

佐藤：うんうん。

川崎：そういうときは個別面談にしたりとか、限られた人数だけで面談したりとかっていう形をとってますね。それとあと。相談支援専門員さんがついている方はその地域にいますので悩み事とかに関してはその方にサポートしてもらったりしてるケースもありますね。

佐藤：地域違っても同じ悩みとか同じですよ。

千葉：そうですね。

川崎：そうですね。

佐藤：私たちも同じ悩みなのですが、そのメンバーの方のですね。特に在宅の方のスキルアップっていうのですか。通ってる方だと徐々に変わっていくのが見えるのですが。在宅の方ってなかなか見えずらいところがあったり、時々会ったときに気づくとかあるんですけど。

川崎：はい。

佐藤：そういったスキル向上とかは、ぶうしすてむさんではどういうふうに行っているのですか。

川崎：研修をすることもありますし。そのときは在宅の人が出てきてもらって研修を受けてもらうんですけど。逆にどうしても出てこれない人も中にいますので、そういう人たちにもこっちが分かりやすいマニュアルを作ってですね、そのマニュアルを見ながら覚えてもらうんですけども。それと、決められた作業なのですけども、この作業を何件できたかっていうのを毎日うちもチェックさせてもらってるんですけど。ちょっとスピードが遅くなるとか。

佐藤：うん。

川崎：最近ちょっと落ちてるんですけどどうしたのでしょうか、みたいな感じの問いかけをこっちがしてみたりとかですね。という形でなるべく●移動と、上げていってるかどうかとか、そういう確認は在宅の人でもやはりさせてもらってますね。

佐藤：やはり丁寧なのですね。

千葉：そうですね。●肌理が細かいって感じがしますよね。

佐藤：うんうん。私なんか実際に見に行ったり在宅の方に会ったりしててすごい皆さんねイキキして明るいのですよね。今その方ひょっとしたらぶうしすてむの方ではないのかもしれないけど、実際イラストとかされてる方もいますよね。在宅でね。

川崎：そうですね。はい。いますいます。

佐藤：なんかすごい本当に多岐にわたってお仕事されて。

川崎：そうですね。皆それぞれ得意分野が違うので。

佐藤：うんうん。

川崎：苦手なところも結構皆さん抱えていますから。

佐藤：うん。

川崎：得意なところを皆さん伸ばしてもらって苦手なところは他のメンバーが補うっていうようなそういう助け合いが自然発生的に起きてきたかなっていう感じは受けていますね。

佐藤：なんかすごい、うちとやはり似てますね。

千葉：そうですね。

佐藤：そうですね。ふうしすてむさんのかわいいイラスト、ぜひホームページ見てほしいのですが、あれもメンバーの方が描いたのですよね。

川崎：そうです。うちの発達障害のメンバーが描いたやつですね。

佐藤：あれ川崎さんですか。

川崎：いや違います。

佐藤：でも川崎さんに似てますよね。

川崎：似てますか。

佐藤：似てますね。あれはでは川崎さんってことにしておきましょう。

川崎：そうですね。

佐藤：では今日からあれは川崎さんってことで。ごめんなさいちょっとお聞きしたいのですが。私たちもぜひ若者層の発達の方とかの支援とかを最近いろいろ考えてまして。

川崎：ええ。

佐藤：ふうしすてむさんはもう既にいろいろな他団体と一緒に週末パソコンを使った教室をしたりとかしてますよね。

川崎：ええ。

佐藤：もしよかったらそういった事例も教えていただけないですかね。ダンボさんでしたっけ。

川崎：ダンボクラブさんですね。

佐藤：ええ。

川崎：自閉症の家族会みたいな団体なのですからけれども。

佐藤：ええ。

川崎：その子供たちに対して、月に1回パソコン教室を開いてるのですけれども。パソコンのスキルは、もちろんパソコンのスキルの目的なのですからけれども。大人とのかかわりだったりとか、違う学年とかの人とのかかわりを通して社会性を身につけていくっていうのも一つの目的で、かなり前からやってるのですけれども。下は中学生。小学校高学年位からいるのですけど。上はもう社会人になった人もいてですね、最初はもう落ちついてパソコンの前に座るところも大変●やって動き回ったりという子が、中学高校とどんどんどんどん上がっていくにしたがってずっと座っていれるようになったりとか。周りに対する気遣いもできてきたりとか。

佐藤：うん。

川崎：すごく成長の過程が見えるっていうのが大人と違って、子供の方がやはりそういうのはすごくはっきり分かるのですごくやっていてやりがいを感じますし、逆に大人の発達障害の人たちに対してもそれがすごく参考になるケースも多いので、すごくこっちは逆に勉強させてもらってるっていう感じですね。

佐藤：月に1回ですか。

川崎：そうです。月に1回させてもらってるのですよ。

佐藤：月に1回でもやはり変わっていくのが分かるのですか。

川崎：毎月毎月ではないのですけれど。半年とかのスパンで見るとずいぶん変わってきたなっていうのがすごく分かるのですよ。

佐藤：うーん。分かりました。何かすごく千葉さん参考になったね。

千葉：そうですね。

佐藤：うん。

千葉：やはりその限られた中というよりは、いろいろな世代もまたいでってということと毎月毎月のなかの取り組み、それをまた半年とか、1年とかっていうスパンで見ていくっていうところもやはり大事な見方というか。

佐藤：うん。何かね、行くたびにすごい刺激があっただけ。

千葉：うん。

佐藤：何かいいものもらってる。マネしちゃおうとかそんな感じなのですけども。

千葉：いい循環があるのですね。きっとね。

佐藤：マネばかりだけだね。何か逆に札チャレが刺激になったこととかありますか？川崎さん。

川崎：ありますよ。

佐藤：ほんと。無理やり、無理やり1個位あるかな。

川崎：本当に高度な仕事をされててすごいなといつも思ってます。

佐藤：いえ。取って付けたような感じになってしまいましたけれども。ありがとうございます。何かごめんなさい。千葉さんの変な動きで●●しました。ごめんなさい。

千葉：失礼しました。

川崎：いえいえ。

佐藤：すいません。

千葉：では今日はふうしすてむさんの川崎理事長からお話を聞きましたけれども時間がそろそろ終了の方に向かってまいりまして、残り1分半位ですね。では締めに入っていきます。美貴さん今日は川崎さんからお話を伺ってどうですかね。

佐藤：どうですか。いつもちょこちょこ電話したりとかメールしたりしてる関係なので会うたびに刺激もらうんですけど。今日も何か川崎さんのお話を聞いてそれぞれの団体の個性

っていうのをほんと大事にすることも大切なのですが。地域違ってぶうさんとか札チャレって志が似てるので、そういったところがつながって、大きく社会とつながっていくのも大切だなと思いました。

千葉：そうですね。

佐藤：川崎さんこれからもよろしくお願いします。

川崎：こちらこそよろしくお願いします。

千葉：よろしくお願いいたします。

川崎：ありがとうございました。

千葉：ありがとうございます。それではですね、本日の札チャレラジオ通信はこれでということになるのですけれども。来週ですが株式会社ヒューマンリソースの代表取締役社会保険労務士であります、倉めぐみさんをゲストに放送していきたいと思います。それではラジオをお聴きの皆さま、また来週まで、さようなら。

佐藤：さようなら。